

## 産衛だより

## 平成 26 年度第 4 回理事会議事録

日 時：平成 27 年 1 月 10 日（土）13：00～17：00

場 所：公衛ビル

出席者：圓藤吟史（理事長）、大久保靖司、川上憲人、五味秀穂、角田 透（以上業務執行理事）、大前和幸、加藤 元、岸 玲子、久保田昌詞、車谷典男、齊藤政彦、柴田英治、菅沼成文、菅原 保、住徳松子、諏訪園靖、笠島 茂、中川秀昭、野見山哲生、原田規章、堀江正知、宮本俊明、村田勝敬、柳澤裕之、吉田貴彦（以上理事）

實成文彦、藤田雄三（監事）

欠席者：五十嵐千代、荻野景規、東 敏昭、山田誠二

理事出席者 25 名であることから、定款第 38 条により、理事会が成立していることを確認した。

## 審議事項

- 平成 26 年度第 3 回理事会議事録の確認：川上総務担当理事承認された。
- 表彰制度候補者（名誉会員）推薦について：加藤理事  
名誉会員については、前回の中間報告以降、締切りまでの間に追加の推薦がなかったことが報告され、前回通りの 4 名の推薦が承認された。
- 平成 27 年度の事業計画案について：川上総務担当理事  
事業計画案の内容が説明された。非常設委員会である産業保健看護専門制度準備委員会を産業保健看護専門家制度委員会として常設委員会に追加することとし、承認された。
- 平成 27 年度の予算案等について：角田経理担当理事  
予算案の内容が説明された。産業医・産業看護全国協議会の開催年度の助成金を 100 万円増額することが提案され、承認された。
- 部会内規について：川上総務担当理事  
それぞれの部会の規則について、各部会の英語名が追加されたことなどが説明され、承認された。産業看護部会規則の事業部分について一部修正の上、承認された。
- 研究会の継続申請について：大久保総務担当理事  
継続を希望する 18 の研究会の継続申請について検討し、すべて承認された。今年度末までに申請のない研究会への対応については、次回の理事会で決めることにした。
- 登録産業看護師新制度の規程案について：大久保総務担当理事  
新制度の規程案について説明があり、審議された。一部修正することとし承認された。来年度の総会で審議する。次回理事会までに移行措置について明らかにするよう求められた。
- ICOH2015 への資金援助について：川上総務担当理事  
ICOH2015（韓国）より寄附の依頼があり検討した。発展途上国からの参加者を支援するため、国際交流費から 50 万

円を支出することとした。

- 次回理事会日程について：川上総務担当理事  
次回は平成 27 年 4 月 18 日（土）の予定。

## 報告事項

- 第 87 回日本産業衛生学会会計報告：角田理事  
最終の決算が報告された。
- 第 88 回日本産業衛生学会準備状況報告：車谷理事  
演題登録は 524 題の応募があった。スケジュールと企画内容が説明された。
- 第 89 回日本産業衛生学会準備状況報告：村田理事  
事業計画が示され、スケジュール通りに進めていることが報告された。  
(後日、開催日程等の補足連絡があった。)  
学会テーマ：「次世代につなぐ産業衛生学会の研究と実践」  
会期：平成 28 年 5 月 25 日（水）～5 月 27 日（金）、  
会場：福島県文化センター他
- 第 24 回産業医・産業看護全国協議会会計報告：中川理事  
大まかな収支が報告された。
- 第 25 回産業医・産業看護全国協議会準備状況報告：原田理事  
産業衛生学雑誌に第 2 報が掲載される予定であることと、ホームページが公開されたことが報告された。
- ACOH2014 会計報告：堀江理事  
平成 26 年度の収支決算が報告された。黒字の見込み。準備期間を含めた ACOH2014 全体の会計報告を次回理事会に提出するよう求められた。
- 近未来の産業衛生に係る研究課題検討ワーキンググループ報告：大前理事  
前回の理事会で発足したワーキンググループのメンバーは、大前理事、堀江理事、車谷理事、堤純編集委員会委員長、東川麻子会員の計 5 名。わが国における産業衛生分野の近未来の研究課題について学会員に募集したところ、22 課題の応募があり、評価した結果が報告された。これらの公開方法について議論した結果、本人の同意を得た上で、「研究課題名」「課題提案者・課題組織」「研究課題の提案理由」を学会ホームページと産業衛生学雑誌に公開することにした。また、厚生労働省にも情報提供する。
- 厚生労働省からのヒアリングについて：圓藤理事長  
日本衛生学会と日本公衆衛生学会との 3 学会合同で提出した「日本医療研究開発機構設立に伴う食品衛生、労働安全衛生、健康安全・危機管理等の分野の研究推進に関する緊急提言」に関して厚生労働省からヒアリングを受けることになったため、説明資料の案が提示され、内容を検討し、一部追加修正することになった。以下、3 つを主な要望とした。①産業衛生分野における研究予算の十分な確保、②労働安全衛生に関する研究を戦略的に推進する体制の整備、③当学会会員からの継続的な意見徴収。
- 主治医と産業医の連携についての情報収集報告：齊藤理事  
前回理事会で依頼を受け、産業医部会で主治医から産業医への情報提供が有意義であった好事例を情報収集してまとめ

- た意見が報告された。これについては、学会ホームページおよび産業衛生学雑誌に掲載することとし、厚生労働省へも情報提供する。
10. 4部会長会議報告：加藤理事  
産業医・産業看護全国協議会について、平成28年度開催の第26回から産業衛生技術部会が共催に加わることに伴う名称変更の検討を進めていることが報告された。  
各部会の幹事の任期満了に際し、各部長から各地方会長に新幹事の推薦を依頼する。
11. 産業医部会報告：斉藤理事  
平成27年度の事業計画について、研修事業の充実などが報告された。
12. 産業看護部会報告：総務担当理事：住徳理事  
登録産業看護師新制度について、各地方会の産業看護部会で説明会を行っていることが報告された。
13. 産業衛生技術部会報告：柴田理事  
「化学物質の個人ばく露測定ガイドライン」の報告会を予定していることや、産業衛生学雑誌への掲載について編集委員会と検討中であることが報告された。また、「AIHA（アメリカ産業衛生協会）の統計計算ツール日本語版」が作成され、産業衛生技術部会ホームページにリンクを設定していることが紹介され、活用が勧められた。
14. 産業歯科保健部会報告：加藤理事  
第88回日本産業衛生学会のシンポジウムやフォーラム、第25回産業医・産業看護全国協議会のシンポジウムの計画について報告された。
15. 専門医制度委員会報告：大久保理事  
登録者数（指導医367名、専門医237名、専攻医156名）と、専攻医試験の日程等について報告された。  
また、一般社団法人日本専門医機構における社会医学系統の専門医制度の位置づけについて、同じ領域の関係各所と連携して対応策を図るため、いくつかの学会に呼びかけ、近日常に意見交換を行う予定であることが報告された。
16. 生涯教育委員会報告：宮本理事  
良好実践事例（GPS）の投稿が18件あり、次回委員会にて審査することが報告された。（後日、投稿件数が20件と修正された）
17. 編集委員会報告：野見山理事  
Journal of Occupational Healthと、産業衛生学雑誌の平成26年の投稿状況、採択率などが報告された。和文誌の査読充実のため、平成27年よりScholarOneの導入を予定している。
18. 中央選挙管理委員会報告：野見山理事  
各地方会において、代議員選挙を経て、理事候補者選挙が行われた結果が報告された。また、監事候補者選挙の手順、日程などの予定が報告された。
19. IT担当理事報告：諏訪園理事  
許容濃度等に関する委員会からの要望により、ホームページの許容濃度等の勧告のページを利用しやすいように改修することが報告された。
20. 担当理事報告：各担当  
①利益相反に関する委員会報告：柴田理事  
第88回日本産業衛生学会でワークショップを開催し、そこでの意見を踏まえて本学会の利益相反の推進を検討していく予定であることが述べられた。年次学会発表時の利益相反についてさまざまな意見が述べられた。  
また、社会医学系の4学会で検討している共通の利益相反ポリシー作成について、改めて意見交換の場が設けられることになったことが報告された。  
②政策法制度委員会報告：岸理事  
第88回日本産業衛生学会のシンポジウムでは、国際的視点から今後の産業保健の政策や法制度について考える企画をしていることが紹介され、参加が呼びかけられた。
21. 公的委員会等情報報告：各担当  
・厚生労働省ストレスチェック項目等に関する専門検討会：川上理事  
昨年まで行われていたストレスチェック制度に関する検討会が完了し、報告書が厚生労働省のホームページにて閲覧可能になっていることが紹介された。
22. 会員の状況：川上総務担当理事  
正会員数：7,699人（平成26年12月19日現在）
23. 協賛・後援等：川上総務担当理事  
以下の3件が報告された。  
・第32回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会（協賛）  
・平成26年度安全衛生教育促進運動（協賛）  
・第13回日本予防医学リスクマネジメント学会学術総会（後援）
24. その他：川上総務担当理事  
・臨床試験を適正に行える医師養成のための協議会への協力について：大久保理事  
臨床試験を適正に行える医師養成のための協議会から教育に関する調査のアンケートが届き回答した。今後この協議会より参加依頼があった場合には、参加する方向で検討する。  
・禁煙推進学術ネットワークのブックレットについて：川上理事  
同ネットワークの委員から届けられた昨年度改訂のオフィシャルブックレットが紹介され、この改訂には当学会は参加しなかったため、次回改訂時には加わってほしいとの委員の要望が伝えられた。